

## (1) 繊維

17/16 18/17 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0~▲10%

: 天気図マーク; ● ◎ ○ 伸び率0~10% ● 伸び率▲10%以下

### 1. 企業経営動向

#### (1) 需要

- ・ 15 年度後半から景気が全体的に回復に向かい、個人消費も持ち直してきたことに加え、17 年度は夏の軽装推奨の動きや天候の影響もあり、繊維の国内需要は、衣料品分野を中心として回復の兆しがある。
- ・ 輸出は引き続き全体的に低調であり、17 年は対前年比で微減（出典：貿易統計）。

#### (2) 生産・設備稼働

- ・ 17 年度に入ってから繊維工業全体の生産は前年に引き続き前年度比マイナスが続いている。
- ・ また、在庫についても引き続きマイナスとなっている（出典：繊維統計）。生産、出荷の減少は、不採算部門からの撤退、東アジアを中心とした生産体制のグローバル化によって国内生産比率が低下する傾向にあることを要因としている。
- ・ 在庫についても、引き続き生産調整を行うことで、減少傾向が続くものと見込まれる。

#### (3) 企業収益

- ・ 大手合繊各社の決算状況は、衣料用途は苦戦したもの、産業用途は堅調で、増収、増益を確保した社が目立った。
- ・ 大手紡績各社の決算状況は、売上高で概ね伸び悩み、繊維事業は総じて苦戦。前年割れが大勢を占め、減収減益基調。
- ・ 大手アパレル企業の決算状況は、各社の構造改革の成果や厳冬の影響もあり、全体として収益改善の傾向。

#### (4) 財務

- ・ 大半の企業において財務体質の強化を引き続き進めており、有利子負債の削減、不採算事業からの撤退などのコスト削減・生産効率の向上を目指した取り組みを行っている。

### 2. 設備投資動向

#### (1) これまでの設備投資の推移

- ・ 繊維業界全体では、設備投資の実績は平成 4 年度以降減少または横ばい傾向が継続していたが、16 年度実績額は、335.3 億円（15-16 共通企業 26 社）と対前年度比+14.1%となった。
- ・ また、17 年度実績見込み額は、370.7 億円（16-17 共通企業 33 社）、同▲ 0.8%減少の見込み。

## (2) 平成 18 年度の設備投資計画

- ・ 18 年度の設備投資計画額は、全体としては 487.5 億円（17-18 共通企業 30 社）、同＋ 34.9%と増加の見込み。
- ・ また、業種別に見ると、紡績は前年比＋ 65.1%、化学繊維製造業は同＋ 21.9%、染色整理は同＋ 472.7%、衣服等は同 4.2%と軒並み増加の見込みとなっている。
- ・ 目的別投資内訳を概観すると、18 年度計画においては、全体的に、更新・維持及び生産能力増強の割合が高い。
- ・ また、業種別に目的別投資内訳を見ると、化繊では更新・維持に対する投資が約 5 割弱を占めており、衣服等では生産能力増強への投資が他業種と比べて高くなっている。

## 3. 長期資金調達・運用動向

### (1) 長期資金運用動向

- ・ 18 年度計画において、設備投資所要資金については、20.8 %の増加となっている。

### (2) 長期資金調達動向

- ・ 一方、資金調達方法については、18 年度計画においても、借入金を減らし内部調達の範囲内で設備投資をする傾向が続いている。

(グラフ 1：設備投資の前年度比の推移)

